

湖海俱ニ産ス、又鹹淡相雜ハル處ニ生ズ、江州湖中ニ最多シ、勢田ヲ名產トス、古歌ニハ堅田ノ蜆ヲ詠ズレドモ、今ハ勢田ニ多シ、泥中ニ生ズルモノハ色黒シ、シンデンシ、ミ江州ト云、コレヲ烏蜆新語、廣東黑蜆、同上ト云、大ナルハ八九分、久キモノハ兩片秃テ白シ、沙中ニ生ズルモノハ色黃ナリ、アメ江州ト云、コレヲ黃蜆、廣東新語ト云、廣東新語ニモ、在沙者黃、在泥者黑ト云ヘリ、又シマシマミアリ、色黃ニシテ堅ニ黒道アリ、粗細一ナラズ、又斑點アルモノアリ、又海中ニ產シ、皺アラクシテ色白キモノヲサバメト云、白蜆新語、廣東ナリ、白蜆ニ同名アリ、尋常ノシヤミガラノ久クナリテ、黒皮自ラ脱シタルヲ、白蜆殻附方ト云、サレシヤミカラナリ、

〔日本山海名物圖會五〕蜆貝 海と河との鹽ざかひに多く生ず、又湖水にもあり、小蜆を取て泥池の中にやしなひおけば、年をへて甚だおほきくなりて、味よしといへり、蜆を取には竹籠をこしらへ、底に袋網を付て水中をかきて取也、土砂と共に袋の中へ入て、玄みは袋の中に残り、土砂は袋あみよりもれてのく也、身玄みは貝を釜にてたき、水にゆりて貝殻を去て、むきみとする也、

〔播磨風土記 美靈郡志〕深里土中所以號志深者、伊射報和氣命御食於此井之時、信深貝遊上於御飯菖緣爾時勅云、此貝者於阿波國和那散、我所食之貝哉、故號志深里、

〔毛吹草三〕攝津 川口蜆

武藏 川口蜆 近江 蜆貝

〔萬葉集六 雜歌〕春三月○天平六年幸予難波宮之時歌六首○五  
住吉乃、粉濱之四時美、開藻不見隱耳哉、戀度南、

右一首作者未詳

〔爲尹卿千首和歌〕寄貝戀

亥々みとる堅田の浦の海士人よこまかにいはかひぞあるべき